

学科名	声優・演劇科
コース名	
授業科目	声優演技Ⅰ
必選	選
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	105
単位数	3
担当教員	ヨシダ朝・古山あゆみ
実務経験	有
実務経験職種	俳優・声優
授業概要	1人の作家が作品を生み出す背景を調べさせる。本来自分の足で現地へ赴く、などが理想ではあるが、まずは手軽に、現在のネット情報から調べさせる⇒そして調べたことを、出来るだけ発表させて、ディスカッションさせる⇒その中の真実や疑わしい事柄を見つける。⇒確証のない事柄から、自分なりの作品解釈を見つける。⇒発表させる＝自信を持たせ、やりきる達成感や、他の学生から、新たな刺激を貰い、次のステップへ！
到達目標	本を読み解く事で、作者の思いや作品意図を掴み、字面では読めないことを想像し、自分なりの理解力を形にしていく。稽古し、発表の機会を増やすことで、成功・失敗を経験し、次の課題を生み出していく！作品を発表するための稽古は、コロナ禍で希薄になっている、人との繋がりが不可欠。強いては社会生活の一端を担う。
授業方法	教室だけで完結させず、人前で発表することをゴールとして組み立てていく。 シナリオの読解力を向上させられるよう、作者の意図や演出側の考えをディスカッションさせながら深めていく
成績評価方法	平常点30% 授業参加態度を評価。 課題30% 調べる・覚えるなどの課題を本人なりに努力しているか？を評価。 参加度30% 発表会に向けての参加度。 目標達成10% 授業初回に本人に目標を決めさせ、その過程を評価。
履修上の注意	発言の機会を与えても、なかなか言葉に出来ない学生もいるので、書かせたり、工夫する。稽古になると、自我が出る学生が誘導しないよう、引っ張る資質か、強制化かを見極める。学生が求める平等と、やる気のある学生は伸ばす！の境目に留意する。社会生活を送る上で、最低限の挨拶・理由のはっきりしない遅刻・欠席は心身の体調を見ながら指導。
教科書・教材	各担当講師より授業前に配布（例：宮沢賢治・三浦哲郎）

授業計画	
第1回	自己紹介からのコミュニケーション。人前で表現することの意味。本を読み解く必要性を理解する
第2回	課題調査を行い発表。ネット情報の使い方・調査内容の確認から、紐解く
第3回	ディスカッション。人前で発表し合うことで、共感できる部分・疑問点を探していく
第4回	作品を考える。まずは書かれている言葉を理解していく
第5回	第一印象からの変化。作品に深く振れることで、より共感するのか？またイメージが変化するのか？
第6回	表現の自由。朗読とはこう、演劇とはこう、の概念からの逸脱
第7回	オリジナリティとは？作品の形態や表現方法を各自でみつける
第8回	グループ稽古① 自分たちのアイデアを出させ、想像力を磨く
第9回	グループ稽古② 稽古シチュエーションや本の流れから面白さを探る
第10回	グループ稽古③ 稽古観客に本の面白さを理解させるために、他グループからも刺激を貰う（意見交換）
第11回	グループ稽古④ 稽古観客に本の面白さを理解させるために、他グループからも刺激を貰う（意見交換）
第12回	グループ稽古⑤ 稽古観客に本の面白さを理解させるために、他グループからも刺激を貰う（意見交換）
第13回	教室内発表。とりあえずやってみる！実践することで足りないところを見つける
第14回	発表会リハ。衣装や小道具も考える。表現者にとっての影響力を感じていく
第15回	第一回発表会。観客の前でやることで得られる、様々な感情も経験値にしていく
第16回	発表会の振り返り。やりっぱなしにならないよう発表会のビデオ鑑賞し個々の感想から、次回課題へ導く
第17回	次回課題への導入。（戯曲）新しい作品の取り組み方を自主的に進めていく
第18回	読み・本の流れを知る。調べたことからのディスカッション
第19回	休み明けの成果発表。本読みグループワークへと進むことで、広がりを見つけさせる
第20回	グループでのディスカッション。稽古稽古の中で演出力も含め、客観性も身に着ける